

地域と歩む
訪問薬剤師



～学校薬剤師として

先生や保護者を啓発する～

学特別支援学校で

薬剤師法の第1条に「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」と書かれています。薬剤師の業務は調剤だけではなく、今回取り上げている学校薬剤師として、学校生活を送る児童生徒に最適な環境についてアドバイスしたり、衛生管理をしたりすることもあります。

私も学校薬剤師として担当する学校があり、私の場合は特別支援学校(肢体不自由者)の学校薬剤師をしています。通常の業務として、水道水の検査・空気の検査や給食室の検査を行っています。

児童たちは肢体不自由ですので、多くが薬を服用しており、昼食後に服用する場合も多々あります。医療的なケアを必要としている児童も多く、看護師が配置されています。

そのような環境下での業務ですので、養護の先生(看護師)から、いろいろな薬の相談を受け、回答していくこともよくあります。

「学校保健委員会」に参加する機会がありました。薬をテーマに挙げていただき、事前に養護教諭が薬への疑問について教員と保護者にアンケートを実施し、私はその回答をパワーポイントにまとめ(コラム参照)、参加された方たちと情報を共有しました。

この学校の児童数は約100人(小学生)で、6割の児童が何らかの薬剤を服用しています。教員の質問は、薬剤を服用する際にどうしたら溶かせるのか、どこまで服薬支援をしたらいいのか、医療法に抵触しないのかなど具体的な質問が多く、保護者からは、どうしたら薬剤を飲んでもらえるのかなど、日ごろの苦勞がアンケートに表れていました。

小児の薬剤は主にお母さんが服薬を担っています。お母さん方は服用しやすい方策を一生懸命考え、いろいろなアイデアやテクニックを駆使していました。



薬剤師には当たり前でも

そのうえで、どうしたらもっとより良く適切で安全な服用ができるのかを質問されます。私なりの回答をお伝えしました。

簡易懸濁法* で溶けないものはどうしたらよいか。薬の苦い味をマスクするためのいろいろなアイデアがあるが、注意点は。混ぜてはいけないものはあるか。などに対し、薬剤師の視点でお話をさせていただきました。

教員・保護者から筆者への質問とそれへの回答（抜粋）

●こっすりのませても味でわかり吐き出してしまふ。うまく飲み込めたとおもっても、嘔吐反射が起こって吐き戻してしまふ／成長とともに粉薬が多くなるが、錠剤の方が良いかもしれない。でも、嚥下が上手ではないため、万一を考えると錠剤も難しい。上手にのめるような何か手立てがあったらぜひ知りたい／味に敏感で、苦いと飲んでくれないので困っている。

筆者の回答 薬は基本的に水で服用することを前提に開発されています。薬剤が体に入る方法として、経口投与が一番安全と考えられているからです。ただし、飲みにくい薬剤があります。小児の場合、味の変化で対応できれば、それを勧めます。保険適用の矯味剤（薬に添加して味を矯正するもの）として単シロップ・乳糖があります。それ以外にも、ココア・アイスクリーム・ジャム・牛乳・ゼリー・はちみつ・チョコレートなどがあります。ただし、薬剤によっては効果に影響するものがあるので、薬剤師に相談してください。

オブラートで包み、全体を濡らすと、ゼリーのようにスプーンで服用できます。市販の服薬ゼリーと同じです。粉は少量の水で練り、上あごに張り付け、そのあと水を飲ませて一緒に服用する方法もあります。苦いものを感じる舌の部分を選べる方法です。

●栄養剤に混ぜてのませているが、溶けきらず残っていることが多い。

筆者の回答 できれば別に服用してください。栄養剤が嫌いになったら困ります。

●薬をのむ時、一緒に飲む水はどのくらいの量が適切なのか。

筆者の回答 水の量が少ないと、喉や食道の途中でくすりが

張り付いてそこで溶けてしまい、潰瘍を起こすこともありまふ。くすりは本来、十分な量の水やぬるま湯で胃まで送られて溶け、成分が血液中に入ることによって効果が発揮されます。喉や食道で溶けてしまったくすりは、効果が期待できません。

●漢方薬を効率よくのませる方法を知りたい。

筆者の回答 漢方薬はエキスとして抽出されたものをフリーズドライして製品化されています。服用するときは微温湯で溶かし、液状にしてのむとよいのです。独特のえぐみや味がありますので、抵抗のある場合は矯味をします。いま一番多く使われているのがココアで、漢方の独特の味においをマスキングしてくれます。基本は砂糖・はちみつで、アイスクリームも良いかと思ひます。市販の小児向け服薬ゼリーもいろいろ種類があり、口に合うものが見つかるかもしれません。牛乳はできたらやめていただいた方がよいです。薬効の吸収が多少落ちるようです。

●粉薬を多めにもらっている。袋に入った粉薬は何カ月くらいまでならのめるか。湿気らない様にビニールに入れた状態で缶などに入れて保管したりしている。坐薬もどのくらいもつか。

●粉薬保管時の湿気対策を知りたい。

筆者の回答 粉薬にも、湿気を吸収しやすいものと比較的那样でないものがあります。基本は温度・湿度の管理です。湿度はできるだけ少ないほうがよく、お茶やのりの缶に乾燥剤（シリカゲルなど）と一緒に入れ、しっかりふたを閉めます。できれば1週間単位くらいで使い切る量を缶に入れるとよいかと思ひます。常温保存のくすりなら20℃前後で管理してください。特に夏場は要注意です。

今回の件で、薬剤師にとって当たり前であることが、服用を支援するお母さんたちにとっては当たり前でないことに驚きました。薬剤の特性を生かした服薬方法や、その特性ゆえにやってはいけないことなど、まだまだ伝えられていないことがたくさんあることも実感しました。

日々の業務を通して、安全に正しく服薬していただけるよう啓発していくことが大事です。丁寧に伝えていこうと考えています。

*簡易懸濁法錠剤やカプセル剤を55℃ほどの温湯に入れてつぶし、経管投与する手法。



たかはし まなお
高橋真生

在宅医療薬剤師。千葉・船橋で保険調剤薬局を展開する株式会社カネマタ代表取締役。訪問薬剤管理を長年実践し、地域医療に貢献している。

本論文は、メディカ出版「医療と介護 Next」に掲載されたものです。
そのため、一部の内容に執筆当時の情報がございます。